

技4 カラマツ将来木施業実証林の成長経過について

胆振総合振興局森林室豊浦事務所 林業普及指導員 坂本 雄
胆振総合振興局森林室普及課 主査（計画指導）馬場 敏宏

調査の背景・目的

カラマツは戦後広く植栽され、一般民有林における人工林の主要樹種になっています。カラマツ資源の保続と安定供給の推進には、伐期を分散するなど資源の平準化の対策が必要です。その解決策の一つとして、長伐期施業の1つの方法である「将来木施業」の普及に向けて、平成28年、胆振管内厚真町有林に道内初となるカラマツ将来木施業実証林を設定しました。今回はその施業の概要と設定から5年の定期調査を行ったのでその経過について報告します。

実証林の概要

○場所	厚真町字宇隆 (72林班183小班)	○施業履歴	昭和56年 植栽 (2,500本/ha) 下刈3年
○所有者	厚真町	平成7年	除伐 (15年生時)
○樹種	カラマツ	平成12年	保育間伐 (20年生時)
○林齢	41年生	平成22年	搬出間伐 (30年生時)
○面積	4.42ha	令和元年	搬出間伐 (39年生時)
○地位	I等地		



写真-1 A区の様相 (R3年撮影)

調査区の設定と調査内容

①調査区の設定 (平成28年)

36年生時に、A区 (将来木施業区)、B区 (定性間伐区)、C区 (無施業対照区) を設定しました。A区においては「カラマツ将来木施業導入支援ソフト」 ((地独)道総研林業試験場) を活用し、林齢80年生で径級38cm以上になることを目標に将来木を選定しました。

②林分調査 (平成28年・令和3年)

実証林設定時と5年経過時に、胸高直径・樹高・枝下高調査を行い、配置図・樹冠投影図を作成しました (図-1)。

③間伐の実施 (令和元年)

39年生時に、A区では、将来木の樹冠成長の支障となることが予測される立木を主に間伐を行いました。B区では定性間伐を行いました。

④現状と今後の施業

設定から5年経過時点では、平均胸高直径・平均樹高・平均枝下高について、調査区毎に比較した成長量に大きな差は見られませんでした。今後A区では、47年生・57年生時に間伐を行い将来木に選木した280本/ha当たりの仕立て本数とし、B区との比較による将来木施業技術の有効性について実証を進めます。

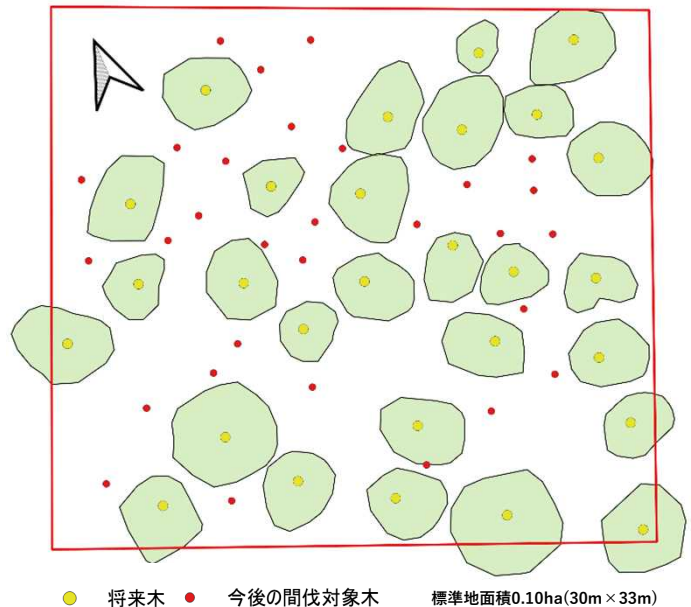


図-1 A区樹冠投影図 (令和3年調査)

今後の展開

カラマツ長伐期施業の一手法として、将来木施業技術の実証に向けて、今後も継続した定期調査により分析・検証を行い、野ねずみ等の獣害や近年多発する台風被害なども観察しながら、地域に発信していきたいと考えます。